

# 米騒動の原因分析

## ～令和の米騒動はなぜ起きたのか～

大阪府立東高校理数科数学二班

表3 重回帰分析のシミュレーション結果

| 年     | 予想価格    |
|-------|---------|
| 2026年 | 3137.42 |
| 2027年 | 3135.34 |
| 2028年 | 3133.25 |
| 2029年 | 3131.16 |
| 2030年 | 3129.08 |

## 1.研究目的

本研究では気温や米の消費量、マークアップ率がどれだけ米の価格に影響しているのか相関を用いて明らかにする。  
さらに今後米の価格を予測する。

## 2.研究方法

- 米の価格とそれぞれの要因との相関を求める。  
2023年までのデータを用いて相関を求め、  
2024～2025年のデータと比較し米高騰の原因を調べる。
- 今後のコメの価格をシミュレーションする。気温は年に $0.014^{\circ}\text{C}$ 上昇、マークアップ率は求めた相関を用いて単回帰分析と重回帰分析をする。

## 3.結果

表1 相関の一覧

| 要因      | 相関係数   |
|---------|--------|
| 気温      | 0.356  |
| 米の消費量   | -0.379 |
| マークアップ率 | -0.876 |

表2 2024～2025年のデータ

|                          |         |
|--------------------------|---------|
| 米の価格(円)                  | 3337    |
| 気温( $^{\circ}\text{C}$ ) | 21.8    |
| 米の消費量(t)                 | 7049000 |
| マークアップ率(%)               | 98.59   |

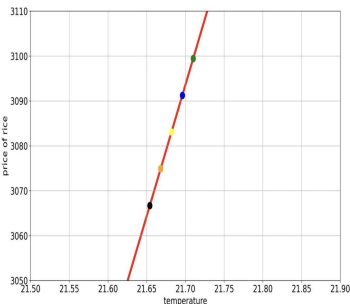


図1 気温と米の単回帰分析結果

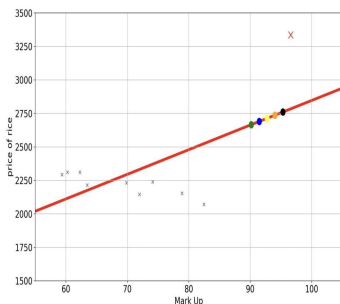


図2 マークアップ率と米の単回帰分析結果

⧖:2015年から2023年までのデータ

⧖:2024-2025年のデータ ●: 2025年の予測 ○:2026年の予測

●:2027年の予測 ●:2028年の予測 ●:2029年の予測

## 4.考察

米の消費量とは負の相関が見られたが、需要の低下と他の要因による米の価格上昇が同時に起こっているだけであり、米の需要は米の価格にそこまで影響しないということが考えられる。

米の価格とマークアップ率とは負の相関がある。しかし2024～2025年のデータと比較するとコメの値段は上がっているにもかかわらずマークアップ率も上がっている。このマークアップ率の上昇こそ米騒動を引き起こした原因である可能性がある。  
この条件下では、高すぎるマークアップ率が徐々に落ち着くことを考慮しているため価格が落ちる予測だが、気温が下がることは考えづらく、何らかの拍子にマークアップ額が上がれば米の価格は再び急騰すると考えられる。

## 5.参考文献

農林水産省,2025,米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針  
<https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/attach/pdf/250526-5.pdf>  
山下 一仁,2025,令和米騒動の経済分析.  
<https://www.rieti.go.jp/jp/publications/pdp/25p002.pdf>  
2025,「全国のスーパーでコシヒカリ5kg1袋の値段は？」小売物価統計調査による価格推移  
<https://www.jpmarket-conditions.com/1002/>  
農林水産省,2025,相対取引価格の推移(平成24年産～令和6年産)  
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/attach/pdf/aitaikakaku-16.pdf>  
気象庁,2025,日本の年平均気温偏差( $^{\circ}$ C)  
[https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/list/an\\_jpn.html](https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/list/an_jpn.html)